

北山村界隈 山野の 花観察



**目立たない地味な花が山野にはあります。
(赤や黄色の派手な花もいけれども)
そんな花もじっくりと見てみると趣があるじゃありませんか!**

川岸に生えていた大きな樹木、面白い花を付けていました。ヤマグルマという木でした。

実はこの花には花びらが無いのだそうです。真ん中にあるのがめしべ、ぐるっととり囲んでいる、マラカス状の黄緑の部分がおしべということなのでしょう。かつてこの木の樹液からトリモチを作ったことから、トリモチの木とも呼ばれていたと言います。昔の人には大事な木で「あっちの川の所にあるでえ。」とちゃんと代々伝えられたのでしょう。

左の写真はシラカシの花。山の一部が煙ったように見えるほど、みごとに咲いています。この時期(5月現在)の広葉樹林帯では必ずと言っていいほど見られる光景です。



山道に入ると(ちょうど大きさも)モンシロチョウが飛んでいるように見えるコガクウツギが迎えてくれます。アジサイの仲間なのですが、(花びらのように見える)装飾萼が3枚で、アジサイの4枚とは違って。それゆえなんとなくリズムカルで愛嬌があります。細い枝が風で揺れると幸せな気分になります。



街路樹などでも見るトチノキ。こちらは野生のもの、山中で見つけました。みごとに咲き誇っています。秋には丸い栗のような実を付けるのです。

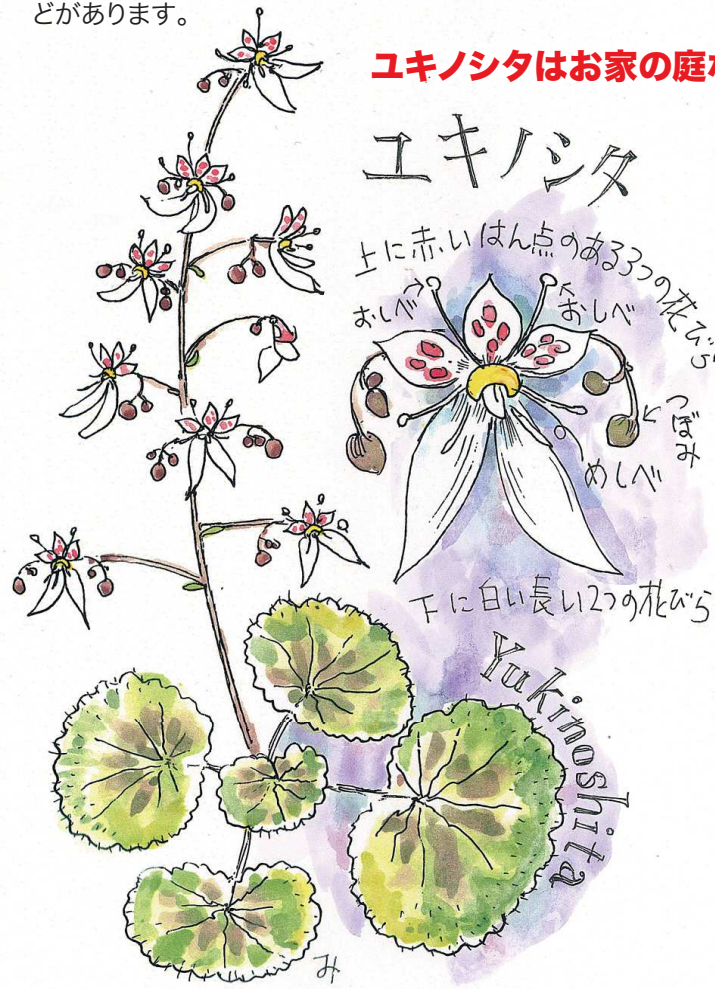


山道を歩いていると、時にドキッとする植物に出会います。それは美しくも不気味です。

道をそれた落ち葉の中によっこりと、キノコかと思える5cmほどの白い花が。「なんじゃ、これ!？」。実は葉緑素を持たない腐生植物で、これが花を咲かせた姿なのだそうです。その名はギンリュウソウ、その不気味さから別名ユウレイタケと呼ばれます。光合成をしない代わりに、土中のカビやキノコを食べて栄養を摂っているといひます。右の写真はヤマコンニャクの類、緑色の花なのでコウライテンナンショウでしょう。この兄弟には紫色の花のマムシグサやミミガタテンナンショウ、釣り糸を垂らしているようなウラシマソウなどがあります。



ユキノシタはお家の庭などで園芸用として栽培されたりもしますが…



天然のユキノシタは、沢沿いの岩の間などに趣深くてたずんでいて、なかなかの和の景色です。茶花として用いられているのも納得です。赤い花茎を伸ばして咲く小さな花は、じっくりと観察してみると、なかなか(言い方変かも知れませんが)良く出来ています。

最後にちゃんと赤い花のお話も。(笑)

地味な花の話をしてきましたが、山野にはちゃんと赤い花だってあります。これはクリンソウ、野生種のサクラソウです。園芸種のピンクや白のサクラソウと違い濃い紅色をしています。湧き水のある湿地帯で見つけ「わぁ!キレイ!だれかが植えたの?」なんて思いました。でもこれは歴とした野生種でした。



七色ダムの下、七色溪谷で真っ赤に満開のイワツツジに出会いました。街で見るツツジとほとんど同じ花を付けていますが、樹形は小さく岩間からこぼれるように咲いていて可憐です。この花のファンがいるというのも理解できます。

四季を通じて山野には花が咲いています。北山村での花観察の旅を、あなたもいかがでしょうか?



写真・絵・文章: 石川源(しかわみなと) フォトエッセイスト

